

# チークの苗木養成法



チークは本省中南部の熱帯地帯に於ける造林として、比較的経済価値が高く、造林も容易で、生長も早く、民營の造林として有望な樹種の一つに数へることが出来た。養成法については最近地方から二、三の間に於いて行はれて、現在、地方に於いて行はれて、適当でないと思はれますので、今回はその養成法を述べて、一般の参考供ししたいと思います。

## 種子の採取時期

チークは七月頃から開花し始め、年末頃に至つて成熟します。三月にわたる、一月中旬ごろから三月にわたる、木熟のまゝ種子を採取する方法と、三月末より四月の頃に自然に落下する種子を拾集めるのと二つの方法があります。前者は木に着果のまま採取するのですが、長い竹竿で種子を叩き落とすのと、竹竿の先に鎌を結びつけて小枝を切り落して取る場合とがあります。普通は鎌で切り落して取る方が能率的です。木に着果のまま採取する方法は母樹が一〇—一二メートル以上ありますが、短く、少々困難があります。短期間の目的の量を採取するには此の方法が確當です。自然に落下した種子を拾集めるのは、落下後の種子が散亂します上に、種子は落葉と同じ色澤ですから、見分けが困難で、また落葉に覆われておりましたため、採集し難く

短期間に大量に採種するには適しません。また落下種子で品質が悪くなつて居るものも多くあります。

採集した種子は、数日間日光に曝しますと、種子の外殻が脆(モロ)くなり、か、あるいは足で踏みつけますと、外殻は容易に剥(ハガ)れます。次に、外殻を剥ぎとりましたら、風撲により種子を選び出し、更に四センチ目の篩(フルイ)に入れて、大粒と小粒にフルイ分けします。小粒種子は何故に不良かと申しますと、先づ第一に発芽率が大きく、生育も良好で、ないからです。

播種 精選種子は、普通一リットルについて約四〇〇粒で、これを矩形の苗床に條播きとします。一條に二〇粒が適當で、粒間は六センチ間隔とし、條と條の間隔は三三センチにして、一平方メートルについて三條とします。

播種の方法は、種子一粒をオヤ指の先で、種子の約八分目まで床面に押し止め、二分目は外から見えない程度に、更に薄く覆土をし、その上にワラを敷きます。此の場合、ワラが厚くなりすぎると、白蟻が発生して害を及ぼすので、注意せねばなりません。ワラは毎平方メートルにつき〇、四キログラム(一キログラムは一、六六斤)が適當です。

育苗地の選擇 育苗地は普通の苗圃の如く、日照時間の長い、風通しのよい、灌水の便利な、砂質の地を選ぶことが大要です。床地は矩形(巾一メートル、長さ一、一五メートル)とし、

チークの種子は表皮が硬く、そのまま播種しますと、発芽に要する長期間を要し、また、発芽時期が揃わず、発芽率も促進法をした場合の五割にも達しません。また発芽後の除草や施肥などに都合が悪く、決して良好な成績を得られません。その播種前に必ず発芽の促進をする事が大切であり、その方法には次の二つがあります。

砂法 砂法は、種子の約倍量の砂を混ぜて、毎朝灌水し、これを七—八センチ位の厚さにならして、日光熱を受けさせ、日中に数回かき混ぜ、夕刻に集積して瓶(コモ)で覆います。これを同じ様な方法で六—七日間ほど繰り返して、胚の膨大して来た時に、砂と種子を篩(フルイ)に分けて、播き付けます。この方法は効果がありますが、方法としては古いやり方で、最近ではあまり用いられて居りません。

浸水法 種子約六〇リットルを麻袋に入れたまま夜間に浸水し、日中にこれを取り上げて日光に曝し、正午頃一回反転します。これを五、六日のあいだ繰り返すと、胚が膨脹しますから、その時に播種する方法が、前の砂法より手数がかかり、前も砂法より、経費を節約できる得点があります。

# 小型榨油機

許清卿

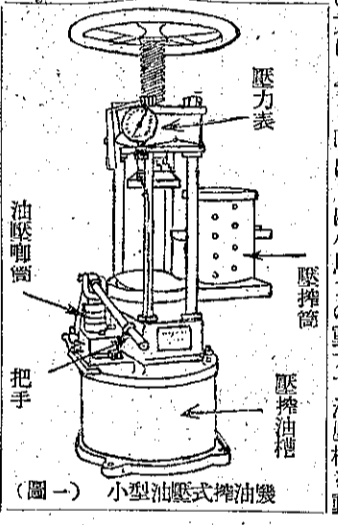
よく短白蟻の害が発生しますから、その時は僅ワラを取り去ることを忘れてはなりません。新芽を小鳥に喰害されることもありますから、これらに注意を要します。

工業によるものが大部分を占めて居る現状です。そこで、農會や合作社、或は土農間(トラクター)などで、動力を榨油の方に用いること、有意義であると思ひ、今、事から、今、同は小型榨油機について、代表的なものを二、三紹介しよう。

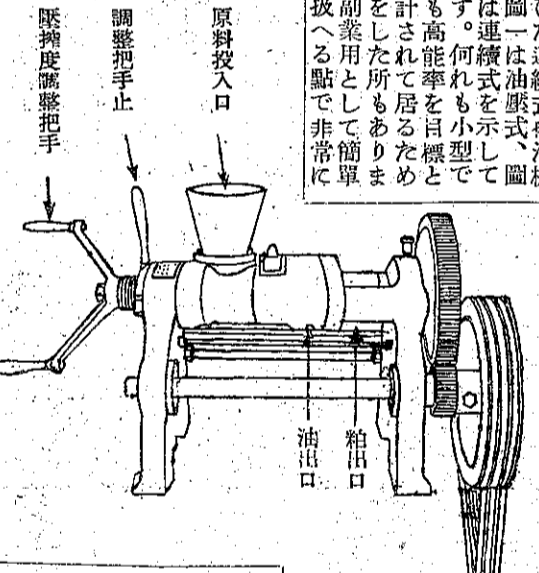
油の原則として左の事が挙げられます。

一、原料の乾燥が適度なこと  
二、適度に加熱すること  
三、徐々に強圧すること  
四、搾油機は設計されて来た居りますが、従来の搾油機は大規模な設備を必要とし、油圧、水圧等を利用しては不適当な部分が多い。一方、人力による簡単な搾油装置は能率が低く、十分な成績が得られませんが、最近では、副産物に油質を加えて、高効率をあげ得る小型榨油機が多数研究されて、左の二種に大別できます。

馬力の動力を利用した小型油



油圧式搾油機 (圖一)



小型連続搾油機 (ネチ軸高速回転式) (圖二)

連続式搾油機は二馬力以上の動力を必要とし、ネチ軸の回転を利用し、原料との摩擦熱を利用して絞

過度になり、また、乾燥不足になつても、搾油格子の

## 小型榨油機試験成績表

機械名稱	馬力	供試原料		試験成績				試験概評
		種類	数量	主副産品	数量	産品比率	所用時間	
末次式搾油機	人力	落花生(粉碎及び加熱したもの)	100斤	花生油	35斤 9兩	35.32%	100斤につき3時間20分	①機械の操作は簡単であるが、原料の準備處理に熟練を要する。例へば粉砕が粗雑であつたり、加熱が長すぎると結果が良くない。 ②壓力が不足する。 ③油が混濁状を呈する。 ④機體を良く加温する必要がない。 ⑤分解掃除が容易。
半田式搾油機	5馬力	落花生(加熱したもの)	100斤	花生油	47斤 11兩	40.58%	100斤につき4時間	
神鋼式搾油機	3馬力	落花生(加熱したもの)	100斤	花生油	40斤	40%	100斤につき2時間	

⑥作業前に機械を70°C位まで加温する。  
⑦搾め原料を火力で炒る必要がある。